

総合的な学習及び探究の時間の展開 ～遠隔授業実施下における題材例～

The development of the Period for Integrated Studies and Inquiries: Consideration of the example of the subject under the distance class.

市川 治郎
ICHIKAWA Jiro

キーワード：総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、遠隔授業実施下、題材例

Keywords : the Period for Integrated Studies, the Period for Integrated Inquiries, Under distance class , Example of subject matter

The new coronavirus pandemic, which began to be recognized in 2020, has spread all over the world, and has shown no signs of settlement after continuing to cause great human and property damage.

Above all, it is an unprecedented blow to school education that can achieve results in a safe and secure environment, and a dark shadow is cast on children at the most important growth and development time in their lives.

In this year's research, distance learning, which was conducted as a response to the new type of coronavirus pandemic, should be positioned as one of the problems that should be solved in the emergency situation.

It was set as a problem-solving subject in "the Period for Integrated Studies and Inquiries".

The and the aim of the research was to contribute to the desired growth of children.

1. はじめに

2020年に認識され始めた新型コロナウイルス禍は、全世界に拡散し、多大な人的、物的被害を与え続けて未だ収束する気配は見られない。

このような非常事態下では、これまでの日常生活では想定することの難しかった様々な影響を受けて、私たちの生活全般に大きな不自由がもたらされている。

何よりも、安全で安心できる環境の中でこそ成果を上げ得る学校教育にとって未曾有の大打撃であり、人生の中で最も重要な成長発達の時期にある子供たちに、暗い影が投げかけられている。

しかし、このような状況下であっても我が国の初等教

育、高等教育に携わる諸学校では、それぞれの関係者たちが様々な経験を生かして知恵を寄せ合い、たとえ命権者の無為無策に晒されようとも、何とかこの苦難を乗り越えようと日夜努力を重ねている。

このような事態にあつて、学校教育の一端に携わる者としての改善策を模索、提案する責務があると考えた。

2. 研究の目的

私は昨年度、「総合的な学習及び探究の時間の展開～芸術系教科との連携の視点から～」として研究を行い、本学研究紀要第17号に発表したところであるが、今年度の研究においては新型コロナウイルス禍への対応としての遠隔授業が実施されている状況の下、むしろその非常事態を解決すべき問題の一つと位置付け、小学校、中学校、高等学校における「総合的な学習の時間及び探究の時間」において問題解決の手法として様々な題材を設定し、その取組みを通して子供たちの望ましい成長に資することを研究のねらいとした。

なお文中では、小学校及び中学校の「総合的な学習の時間」と高等学校の「総合的な探究の時間」をまとめて、「総合的な学習及び探究の時間」と表記する。

3. 「総合的な学習及び探究の時間」のねらい

小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領「総合的な学習の時間」では、その目標を以下のように定めている。

第1目標 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

また、高等学校学習指導要領「総合的な探究の時間」では、その目標を以下のように定めている。

第1目標 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

このように、学習指導要領における小学校及び中学校の目標と高等学校の目標を比較すると、子供たちの成長や発達の段階の変化に応じ、その目指すところがより高度になっていることが分かり、小学校段階から中学校を経て高等学校に至るまで連続して育成すべき資質、能力が示されている。

一方、文部科学省による「各発達段階における子どもの生育をめぐる課題等について（ホームページ公開 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm）」（一部抜粋）によると、子どもの状況を発達心理学の観点から分析して以下のような問題点を指摘している。（以下の下線は筆者による）

○社会構造の変化を背景として、子どもの成長をめぐる環境にも、かつてなかったような大きな変容が生じてきている。現代の子どもの成長には、以前の子どもたちとは異なる形での特徴が見られるようになったり、従来あまり注目されなかった領域で、多くのつまづきが起こるようになったりもしている。

※こうした課題・問題点が生じる要因については、様々な要因が絡み合っているものと考えられるが、とりわけ、以下のような社会変化に対しては、十分留意する必要がある。

《特に留意すべき社会変化》

(1)社会規範の流動化・弱体化、(2)価値観の多様化・日本的な共同社会の変質、(3)地域における人間関係の希薄化・親の孤立、(4)家庭の養育力・教育力の低下・子どもの生活体験、(5)自然体験等の機会の減少、(6)テレビ、携帯電話・インターネット等の情報メディアの普及

○小学校低学年【課題】

(1)学校における集団生活への適応、(2)善悪判断に関する基本的な尺度・枠組みの確立、(3)自然や生命に対する感性等の涵養

○小学校高学年【課題】

(1)抽象的な思考様式への適応、他者の視点への理解力の発達（←→「9歳の壁」）、(2)活動能力の広がりに応じた現実世界への好奇心（興味・関心、意欲）の涵養、(3)対人間関係能力、社会的知識・技能の向上（敵対する者も含めた同年代の者とのつきあいを学ぶ）、(4)良心・道徳性・価値判断の尺度の高次化・強化

※現代の特徴として指摘される現象又は問題点

(1)メディアを通じた疑似体験・間接体験が多くを占め、人・モノ・実社会に直に触れる直接体験の機会が減少している、(2)ギャングエイジを経ないまま成長する子どもが増えている、(3)自尊心を持ってないでいる子どもが多くいる。

○青年前期（思春期）【課題】

(1)自己同一性の確立に向けた模索、(2)特定の友人との深い人間関係の形成、(3)異性との望ましい関係の学習

※現代の特徴として指摘される現象又は問題点

(1)反抗期を経ないまま成長する子どもが多くなっている（「友達親子」の増加）、(2)孤立を恐れる「群れ指向」と友人関係の深まりを忌避する「ふれ合い恐怖」を併せ持つ子どもが多くなっている。

○青年中期【課題】

(1)自己同一性の確立、親や他の大人からの情緒的自立(心理的離乳)、(2)自らの進路を選択・決定できる能力の獲得、(3)市民としての必要な知識の習得・態度の形成、(4)社会的に責任のある行動の遂行

※現代の特徴として指摘される現象又は問題点

(1)子離れできない親・親離れできない子どもが増えている、(2)将来に展望を持たない刹那主義的な傾向の若者が増えている、(3)小さな仲間集団の中では濃密な人間関係を持つが、その外側には無関心となる傾向が強くなっている（社会や公共に対する意識・関心の低下）。

特に下線部の課題は、今回の新型コロナウイルス禍に伴う様々な教育活動実施上の制約により、一層問題が深刻化する恐れが想定される。

4. 遠隔授業の実施下における問題

通常、我が国の学校では、一箇所に多くの児童、生徒を集めて一斉指導を行うことが原則であるが、今回の新型コロナウイルス禍の対応として、いわゆる三密を避ける必要が生じ、以下のような問題が発生した。

- (1)子どもたちが学校に登校し、教室で対面する授業が実施できない。
- (2)子どもたちが集団で行う学校行事や特別活動が実施できない。
- (3)子どもたちが直接対面することを通して、望ましい人間関係を築く活動ができない。
- (4)子どもたちの成長のために教員に求められる直接的で密接な情報共有や、教育環境の整備構築ができない。
- (5)いわゆる電子機器を使用する遠隔授業では、通信環境の差が教育サービスの差に直結し、公平な教育指導が難しい。

これらの問題を「総合的な学習及び探究の時間」を実施する上で考えた時、以下のような問題がある。

- (1)「探究的な学習の過程」を直接的かつ体験的な活動に基づいて構築して来たこれまでの学習活動が難しい。そのため「課題の解決に必要な知識及び技能を身に付ける」過程が不明確となり、「課題に関わる概念を形成」しようとしても独りよがりや妄想に陥る危険性があり、到底「探究的な学習のよさを理解する」ことなどできない。
- (2)子どもたちの中だけで収束するのではなく、地域に向いて調査したり、地域住民にインタビューすることなど、直接的かつ体験的な活動により構築して来たこれまでの学習活動が難しく、「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する」ことができない。
- (3)「探究的な学習に主体的・協働的に取り組む」ための直接的かつ体験的な活動ができないため、子どもたちが共同作業を通してよりよい人間関係を構築したり、望ましい仲間意識をもって協力することが難しく、常に一定以上の距離を置いて活動せざるを得ないような状況では、「互いのよさを生かしながら、積極的に社

会に参画しようとする態度を養う」ということにつながらない。

これらの問題に対応し、「総合的な学習及び探究の時間」の目的や趣旨を踏まえた実施方法を考え、子どもたちの成長につながる題材を準備する必要がある。

以下に示す題材例の実施に当たっては、「哲学対話（梶谷真司）」の手法である8つのルール

- (1) 何を言ってもいい。
 - (2) 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
 - (3) お互いに問いかけるようにする。
 - (4) 発言せずただ聞いているだけでもいい。
 - (5) 知識ではなく自分の経験に即して話す。
 - (6) 意見が変わってもいい。
 - (7) 話がまとまらなくてもいい。
 - (8) 分からなくなってもいい。
- に従って行うものとする。

5. 総合的な学習及び探究の時間の題材例

これまで述べて来た様々な問題の解決に向けた「総合的な学習及び探究の時間」における題材例を以下に示す。

(1) 題材例「つながるためにどうしよう」(小学校低学年)

- 目標「新型コロナウイルス禍のため学校に行けなくなってしまった子どもたちが、学級の仲間たちとお互いに話し合ったり、一緒に楽しく遊んだりする方法を考える。」
- 内容「学級の子どもたち一人一人が、どのようにすればお互いに話し合うことができるようになるか、その方法について遠隔授業で自由に意見を述べさせ、互いのアイデアや意見を共有させる。電話をかける。家の人に頼んで伝えてもらう。遠い距離から大声で話しかける。糸電話を使う。鏡で太陽光を反射させて信号を送る。など、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。また、一緒に楽しく遊ぶための方法として、ネットゲームをする。テレビゲームを屋外でする。友だち同士近づかないで遠くで花火をする。ボールに触れないボールゲームをする。長い竿につけた虫取り網で取った虫をカゴに入れて遠くから眺めてから逃してあげる。長い釣竿で釣った魚を遠くから眺めてから触らずに逃してあげる。など、常識的なものから驚くほど非現実的なものまで、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」
- 留意点「どのアイデアも否定されることなく自由に意見交換されるようにする。ただし、危険を伴う可能性のある手段や遊びなどについては、実行することのないよう厳重に注意する。」

(2) 題材例「食べものを手に入れる」(小学校中学年)

- 目標「新型コロナウイルス禍のため学校に行けなくなってしまった子どもたちが、毎日食べている食物をどのようにしたら入手できるか、食料の生産や物流、販売などの様々な現状を踏まえて考える。」
- 内容「学級の子どもたち一人一人が、どのようにすれば食べものを手に入れることができるか、その方法について遠隔授業で自由に意見を述べさせ、互いのアイデアや意見を共有させる。コンビニエンス・ストアに行く。スー

パー・マーケットに行く。魚屋さんに行く。八百屋さんに行く。肉屋さんに行く。ファミリーレストランに行く。ラーメン屋さんに行く。牧場に行く。農家を訪ねる。漁港に行って漁船に乗る。鮮魚輸送中のトラックを止める。ウーバー・イーツの人を待つ。牛を飼う。豚を飼う。鶏を飼う。米作りをする。畑で作物を作る。海で魚を釣る。北前船を待つ。廻船問屋を訪ねる。一揆や打ち壊しに参加する。山に入って猟銃で狩りをする。秋になったら木の実を拾い集める。物々交換で食べものを分け合う。など、常識的なものから驚くほど非現実的なものまで、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」

- 留意点「どのアイデアも否定されることなく自由に意見交換されるようにする。ただし、危険を伴う可能性のある手段や略奪などの違法行為については、実行することのないよう厳重に注意する。」

(3) 題材例「友だちに伝えたいこと」(小学校高学年)

- 目標「新型コロナウイルス禍のため学校に行けなくなってしまった子どもたちが、これまでの毎日の学校生活の中で当たり前のように友だちと話したり、気持ちを伝えたりしていたことを振り返り、どのようにすれば友だち同士の意思疎通ができるか、情報伝達手段の様々な形態を踏まえて考える。」
- 内容「学級の子どもたち一人一人が、どのようにすれば自分の気持ちを友だちに伝えることができるか、その方法について遠隔授業で自由に意見を述べさせ、互いのアイデアや意見を共有させる。携帯電話をかける。インターネットテレビ電話を使う。メールを送る。手紙を送る。遠い距離から大声で話しかける。矢文を送る。伝書鳩を飛ばす。打楽器を叩いて鳴らす。狼煙を上げて知らせる。テレパシーで伝える。以心伝心で伝える。など、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」
- 留意点「どのアイデアも否定されることなく自由に意見交換されるようにする。ただし、危険を伴う可能性のある手段や違法行為については、実行することのないよう厳重に注意する。」

(4) 題材例「私の本当の姿を知りたい」(中学校)

- 目標「新型コロナウイルス禍のため学校に行けなくなってしまった子どもたちが、本来は近い距離で人間関係を築き合う中でお互いの素顔を知り理解して来たことを振り返り、どのようにすれば自分自身の真実の姿を理解してもらえるか、心理的発達の様々な段階を踏まえて考える。」
- 内容「学級の子どもたち一人一人が、どのようにすればお互いの素顔を知り理解し合えるようになるか、その方法について遠隔授業で自由に意見を述べさせ、互いのアイデアや意見を共有させる。インスタグラムに自分の顔写真を公開する。ラインでつながる。ツイッターをフォローし合う。絵手紙を送る。バグパイブを吹いて音を出す。かわらばんを配る。掲示板を作る。念力で伝える。ゲートボールをする。見つけられないぐらい広い場所で隠れんぼをする。捕まえられないぐらい広い場所で鬼ごっこをする。など、常識的なものから驚くほど非現実的なものまで、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」

のまで、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」

- 留意点「どのアイデアも否定されることなく自由に意見交換されるようにする。ただし、危険を伴う可能性のある手段や違法行為については、実行することのないよう厳重に注意する。」

(5) 題材例「自分一人だけで生きていく」(中学校)

- 目標「新型コロナウイルス禍のため学校に行けなくなってしまった子どもたちが、これまで多くの人々との協働を大切にしていた生活を目指して来たことを振り返り、これからどのようにすれば周囲から隔離された社会で自分一人だけで生きていくことができるか考える。」
- 内容「学級の子どもたち一人一人が、どのようにすれば周囲から隔離された社会で自分一人だけで生きていけるようになるか、その方法について遠隔授業で自由に意見を述べさせ、互いのアイデアや意見を共有させる。親から離れて一人暮らしをする。単独登山でテントに泊まる。山にこもって自給自足の生活をする。無人島に渡って自給自足の生活をする。言葉の通じない他国で一人暮らしをする。一人で砂漠を横断する。ヨットで太平洋を単独横断する。自転車で単独世界一周をする。人跡未踏の地を一人で探検する。宇宙を一人でさまよう。言葉の通じない見ず知らずの人々と共同生活する。悟りを開くため難行苦行にチャレンジする。手品やマジックのトリックを体得する。他者から非難されてみる。他者から嫌われてみる。人間嫌いになる。など、常識的なものから驚くほど非現実的なものまで、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」
- 留意点「どのアイデアも否定されることなく自由に意見交換されるようにする。ただし、危険を伴う可能性のある手段や違法行為については、実行することのないよう厳重に注意する。激論が闘わされるなどの学習後のクールダウンを適切に行う。」

(6) 題材例「適切な距離を保つ社会とは」(高等学校)

- 目標「新型コロナウイルス禍のため学校に行けなくなってしまった子どもたちが、他者と協力して一体感のある社会貢献を目指して来たことを振り返り、これからどのようにすれば周囲との一定の距離を保ちながら社会人としての責任が果たせるか考える。」
- 内容「ホームルームクラスの子どもたち一人一人が、どのようにすれば周囲との一定の距離を保ちながら社会人としての責任が果たせるようになるか、その方法について遠隔授業で自由に意見を述べさせ、互いのアイデアや意見を共有させる。友だちに向かって自分に近づくなと言ってみる。友だちに向かって君が大嫌いだと言ってみる。溺れている人の救助には浮き輪を投げたり長い竿を差し出したりする。自分の縄張りを明確にして侵入者を激しく非難する。領有権問題を真剣に議論する。領海や領空侵犯を許さない態度を示す。我が国の領土を守る意識を強くもつ。自分のテリトリーを頑なに守る。自他の違いを明らかにする。他者の仕事を手伝ったりしない。自分の仕事を他者に奪われないよう守る。他者の意見は

できるだけ聞かない。他者が困っている時はできるだけ見て見ぬふりをする。他者から意見を求められた時は当たり前障りのないことを述べる。余計なお世話とは何か考える。社会貢献を他者の立場で考える。これからの社会人に求められることについて考える。政治を自分のこととして考えない。選挙権年齢に達しても投票に行かない。興味のない他国への海外移住を検討する。など、常識的なものから驚くほど非現実的なものまで、考えつく限り多くのアイデアを自由に交換させる。」

- 留意点「どのアイデアも否定されることなく自由に意見交換されるようにする。ただし、危険を伴う可能性のある手段や違法行為については、実行することのないよう厳重に注意する。激論が闘わされるなどの学習後のクールダウンを適切に行う。」

6. 想定される今後の課題とまとめ

- (1) 遠隔授業の仮想空間だけで擬似的な直接体験を繰り返すことによる精神的な歪み。
- (2) 同一空間を共有して活動しないことによる仲間意識の欠如。集団への帰属意識の欠落。
- (3) 直接体験を伴わない活動の連続により、他者の痛みや苦しさに本当に共感することの難しさ。
- (4) 意図的に距離を保ち続けることによるある種の感覚障害。疎外感や孤独感の増大。多重人格傾向の発生。
- (5) 自分一人だけで考え行動することが求められる状況による社会性の欠如、社会からの孤立。社会貢献への意欲低下。
- (6) 過度の電子機器やシステムに依存した教育活動により、万一さらなる社会的混乱が生じて電源が失われ、情報通信網が働かなくなった場合の生存の危機。

今後は、子どもに与える様々な影響や社会状況の変化を想定しつつ、「総合的な学習及び探究の時間」の新たな展開の形を提案していきたい。

7. 参考文献

- (1) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編、p.187、文部科学省、2017。
- (2) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編、p.165、文部科学省、2017。
- (3) 文部科学省：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総合的な探究の時間編、p.153、文部科学省、2018。
- (4) 梶谷真司：考えるとはどういうことか、p.262、幻冬舎、2018。